

第1章-2 古代ギリシア世界

1. エーゲ文明

▶ BC.20 ~ 15c. クレタ 文明

中心地…… クレタ 島 (クノッソス 宮殿) ……1900年、エヴァンズ (英) が発掘
民族系統不明
写実的・海洋的文化、線文字A (未解読)

▶ BC.16 ~ 13c. ミケーネ 文明

中心地…… ミケーネ、ティリス など
インド・ヨーロッパ語族のギリシア人による
巨石を用いた城壁、戦闘的
文字… 線文字B ……1952年、ヴェントリス (英、1922-56) が解読

※ トロイ 文明 (BC.20 ~ 13c.) ……エーゲ海東岸

ヒッサリクの丘の上に9層の伝説の都市跡
第1層はクレタ文明の影響、第7層が木馬伝説の舞台、第9層はヘレニズム時代

発掘: シュリーマン (独、1822-90) ……トロヤ('70)、ミケーネ('76)、ティリス('84)

▶ BC.1200頃 ミケーネ文明滅亡、400年にわたる暗黒時代へ 鉄器時代への移行期

ギリシア人は方言の違いから イオニア 人、アイオリス 人、ドーリア 人に分かれる

2. ポリスの成立と発展

▶ BC.8世紀頃 ポリス (都市国家) の形成

- ・ アクロポリス (城山)・アゴラ (広場) を中心に集住 (シノイクスモス)
- ・ 市民が市街地周辺の田園に 持ち分地 (クレーロス) を所有し、奴隷を使って農場経営

◎都市国家同士の争いが続き、最後まで領域国家として統一されず

しかし、一民族としての意識は共通に持つ

宗教…… オリンポス の12神
デルフォイ の神託
オリンピック の祭典 (BC.776 ~ AD.393)
自らは ヘレネス と称し、異民族を バルバロイ と呼ぶ
アルファベット (←フェニキア文字)、ホメロス の叙事詩

◎海外に植民都市建設

マッサリア (現マルセイユ)、ネアポリス (現ナポリ)
ビザンティオン (→のちコンスタンティノーブル→現イスタンブル)
南イタリアの諸都市 (=マグナ・グレキア)

▶ 奴隷制

◎アテネ (イオニア人のポリス)

個人所有の家内奴隷・農業奴隷が中心、鉱山でも使役 (ラウレイオン銀山)

◎スパルタ (ドーリア人のポリス)

少数のドーリア人 完全市民 (スパルティアタイ) が先住民を支配

ペリオイコイ (商工業に従事する劣格市民)、ヘイロータイ (奴隷)

※ リュクルゴス の制

完全市民は、貧富の差を生じさせないために商業活動せず土地売買も禁止。
軍営的共同生活によって自分達の平等を強制的に維持

男子のみならず、女子も丈夫な子を生むため厳しい体育訓練

- ▶ **ポリスの政治体制**……初期は王政、のち貴族による共和政（例外：スパルタは王政続く）
 - 東の **リディア** 王国から **鑄造貨幣** の伝来 → 商工業発展、武具も安価に
 - 富裕な平民による **重装歩兵** が軍の主力に → 彼らが参政権要求
 - （以前は貴族の重装騎兵が中心）

3. アテネの民主政とペルシア戦争……典型的なポリスにおける民主化の歴史

- ▶ BC.621 **ドラコン** の成文法……法の明文化で貴族による身勝手な法解釈を阻止
- ▶ BC.594 **ソロン** の改革
 - ・ **債務奴隷** の禁止……身体を抵当にした金銭貸借禁止。この段階での負債帳消し。
 - ・ **財産政治**……土地財産に応じて参政権を与える。 → 貴族・平民の双方に不満

“**僭主**” (tyrannos) ……混乱に乗じて非合法に政権を掌握した者が諸ポリスに出現
 ↓

- ▶ BC.560～527 アテネの僭主 **ペイシストラトス**……例外的な善政。息子2人は暴君→打倒される
- ▶ BC.508 **クレステネス** の改革
 - ・ **陶片追放** (Ostrakismos、**オストラキスムス**) = 僭主出現防止策
 - 市民が、僭主になるおそれがあると思われる者の名を陶器の破片(オストラコン)に書いて投票し、総数 6000 票になった時、その最多得票者が 10 年間追放される
 - ・ **血縁部族制度** (= 貴族の基盤) を解体
 - 行政区 (= Demos) を単位にして市民を地縁的に再編成

《 **ペルシア戦争** 500～479 / 449.BC カリアスの和約 》

- ▶ 原因……小アジアのイオニア人植民市 (**ミレトス** など) がアケメネス朝の支配に対し反乱
- ▶ 経過……ペルシアが3度ギリシアに遠征 ⇔ ギリシア諸ポリスは協力してこれを撃退
 - 第1回 (492.BC、ダレイオス1世)
 - 第2回 (490.BC、ダレイオス1世) …… **マラトン** の戦い (アテネ軍独力で勝利)
 - 第3回 (480～79.BC、ダレイオス1世の子セルクセスが親征)
 - BC.480 **テルモピレー** の戦い……スパルタ王レオニダスの軍が玉砕
 - BC.480 **サラミス** の海戦……**テミストクレス** 率いるアテネ海軍の勝利
 - BC.479 **プラタイア** の戦い……アテネ・スパルタ連合軍の勝利
- ▶ 意義
 - アテネにおける古代民主政治の完成
 - 無産市民も軍艦 (三段櫂船) の漕ぎ手として軍に貢献し参政権を得る
 - アテネの全ポリスに対する優越……BC.478 **デロス同盟** 結成
 - 盟主アテネの指導権絶大、“**アテネ帝国**”
 - デロス島の金庫にある拠出金をアテネ復興に使い込む (→パルテノン神殿)

《アテネの全盛期～衰退》

※古代民主政治の特徴……奴隷制に立脚。成年男子市民による直接民主制。

- ・ **民会** ……最高決定機関
- ・ ほとんどの役職が抽選で市民から選ばれる (任期1年、日当付き・民会出席者にも)
 - ※例外…將軍職 (ストラテゴス) は民会の挙手で選出、重任可能
- ・ 裁判も陪審員制

- ▶ BC.443～429 將軍 **ペリクレス** (495-429) の執政時代=アテネ全盛期
 - 政敵を陶片追放、→ 「名は民主主義だが実は一人の支配」 (トゥキディデス)

⇕

スパルタ がアテネに敵対し、**ペロポネソス** 同盟を率いて対抗

- ▶ BC.431～404 **ペロポネソス戦争** ……アテネ敗北
 - ペストでペリクレス没後、煽動政治家 (デマゴゴス) の下で衆愚政治と化す

《ポリス社会の変容》

スパルタの覇権も長続きせず → テーベ…BC.371 レウクトラの戦いでスパルタを破る

絶え間ない抗争…アケメネス朝ペルシアが「黒幕」として資金を各ポリスに提供し内乱をあおる

→農地荒廃、貧富の差拡大→ 傭兵制へ（古代民主主義の前提が崩れる）

4. ヘレニズム時代

- ▶ ギリシア北方の新興国 マケドニア 王国…国王 フィリポス2世 (位 359-336.BC)
BC.338 カイロネイア の戦い…アテネ・テーベ連合軍を破る
BC.337 コリントス同盟（ヘラス同盟） ……諸ポリスはマケドニアの支配下に

- ▶ アレクサンドロス大王 (BC.356 生、位 336-323.BC、フィリポス2世の子) の東方遠征 (BC.334 ~)
BC.333 イッソス の戦い BC.331 アルベラ の戦い
BC.330 アケメネス朝ペルシア滅亡……ダレイオス3世、家臣によって暗殺

→中央アジア・インダス川流域まで遠征。

- ・東西融合＝ “ヘレニズム 世界”、領土各地に アレクサンドリア 市建設。
- ・オリエン特的専制君主として君臨

↔ BC.323 大王、バビロンで急死

→ ディアドコイ 戦争……BC.301 イブソスの戦 = 帝国の分裂決定的
(=後継者)

- アンティゴノス朝マケドニア (294-168.BC)
セレウコス 朝シリア (305-64.BC、首都 アンティオキア)
→ イラン高原に遊牧イラン人独立……パルティア 王国
さらに東方にギリシア勢力独立……バクトリア 王国
プトレマイオス 朝エジプト (304-30.BC、首都 アレクサンドリア)

→ 3王国ともローマによって滅ぼされる

※ ヘレニズム 時代＝BC. 330 (アケメネス朝滅亡) ~ BC. 30 (プトレマイオス朝滅亡)

5. ギリシア文化・ヘレニズム文化

《ギリシア文化》

- ▶ 文学 ホメロス (BC.8c) ……2大叙事詩「イリアス」、「オデュッセイア」
ヘシオドス (BC.700) ……「労働と日々」、「神統記」
サッフォー (BC.7c) ……女流叙情詩人、レスボス島出身
- ▶ 演劇……全盛期のアテネでは演劇の鑑賞は市民の義務（祭典の一環、コンテスト形式で市民審査員が投票）
3大悲劇作家
アイスキュロス「アガメムノン」、ソフォクレス「オイディプス」、エウリピデス
喜劇作家……アリストファネス「女の平和」、「雲」（ソクラテスやソフィストを風刺）
- ▶ 哲学
ギリシア語で フィロソフィア (philosophia) = 「知を愛する（愛知）」

- ・自然哲学……小アジア・イオニア地方の ミレトス を中心とする諸都市で発達
自然の本質を追及し、法則性（ロゴス）を見出す

- ┌ タレス ……万物の根源は「水」、日食 を予言
- ├ ヘラクレイトス ……万物の根源は「火」、「万物は流転する」
- ├ ピタゴラス ……万物の根源は「数」、三平方の定理
- └ デモクリトス ……万物の根源は「アトム（原子）」

- ・ ソフィスト ……民主政治全盛期に出現した弁論術の職業教師たち
プロタゴラス (485-415.BC) ……「人間は万物の尺度である」(相対主義)
 =普遍的真理は存在しない

古代ギリシアの3大哲学者

- ①. ソクラテス (469 ~ 399.BC)
 “無知の知” ……知らない、ということを実感すること
 問答法(助産術)によって無知や偏見に気付かせ、正しい知識に至らしめる
 ペロポネソス戦争後の政治混乱の中で死刑判決を受ける
- ②. プラトン (427 ~ 347.BC) ……著書「ソクラテスの弁明」「国家」
 アイデア論……現実界とは別に、真実在(アイデア)の世界がある
 哲人政治……統治者(知恵)、戦士(勇氣)、生産者(節制)の調和=正義
 アテネ郊外に学園 アカデメイア を設立
 AD.529 ユスティニアヌス帝により閉鎖されるまでギリシア学問の中心
- ③. アリストテレス (384 ~ 322.BC)
 アレクサンドロス大王が皇太子時代にその教師を務める
 経験・観察を重視する現実主義的哲学を完成
 あらゆる学問の体系化を行い、イスラムの学問や中世スコラ哲学に影響を与えた。

- ▶ 歴史 ヘロドトス ……ペルシア戦争を中心とする物語的な『歴史』
トゥキディデス ……ペロポネソス戦争について、その原因まで批判的に叙述した『歴史』
- ▶ 建築・彫刻
フェイディアス ……ペリクレスの友人、パルテノン 神殿復興、同神殿の「アテナ女神像」

- ※建築様式
- { ドーリア 式……前期、パルテノン、荘重
 - { イオニア 式……中期、典雅
 - { コリント 式……後期、華麗

《ヘレニズム文化》

- ・ギリシア文化を軸にオリエント文化との融合……公用語は コイナー (ヘレニズム世界の共通語としてのギリシア語)
- ・ギリシア本土は衰退……文化の中心は アレクサンドリア
 同地の王立研究所 (ムセイオン)
- ・思想の傾向
 - { 世界市民主義 (コスモポリタン) ←ポリスの衰退
 - { 個人主義 ←共同体への忠誠心欠如 ←
- ▶ 哲学……いずれも個人の生き方としての哲学
 - { ストア 派(禁欲主義) …… ゼノン
 - { エピクロス 派(快楽主義) ……エピクロス
- ▶ 自然科学
 - { アリスタルコス ……太陽中心説、地球の公転・自転
 - { エウクレイデス ……幾何学(英語名ユークリッド。プトレマイオス1世に「学問に王道なし」)
 - { エラトステネス ……地球球体説、地球の周囲の長さ測定
 - { アルキメデス ……浮力・比重の原理 (シチリア島シラクサの人、第2次ポエニ戦争でローマ軍に殺害される)
- ▶ 彫刻 ……「ミロのヴィーナス」、「ラオコーン」、「サモトラケのニケ」